

二年ぐらい経ってから元塩工場ができて始めたわけだが、しばらくしてからエクセル入れて、それでみんなが暑い中だこっちは快適なクーラーの中を仕事をさせてもらったわけだね。あのころは「革新市政の会」のチラシの二十万ぐらいのやつをエクセルで徹夜でやった。

玉水 インテリアを平台でやってた。マリノニ輪転が入って「愛知民報」の大量印刷を始めた。あれも二日間の徹夜を一週間に一遍ぐらいずつやってた。徹夜徹夜で連続だったなあ、あのころは。選挙になってくるとそれまではそんなに大量ものほうでやってなかったもんな。

畑 それから、仕事で一番苦労したのは「ハ一モニー」かな、紙がトキビシで、あれが乾きが悪くて苦労したわね。

あのころはやっぱり「新婦人」の新聞だとか「民商」の新聞だとか来ておったんじゃないかなあ。

玉水 僕が入ったときは枚葉機が手差しで五台あった。みんな機械が中古ばかりだからとにかくよく壊けて苦労した。いちど操作盤が燃えて消火器で消した覚えがある。

元塩に行くということになったときに僕は本社でローリングで紙型をとって、

営業の人で元塩に走る便があったからそれに乗せてもらって行った。

それが今度は植字に配属されて、ローリングの紙型をとりながら植字をやった。

和賀 私も、田中忠さんと東亜社という会社から今井さんの幹旋か何で機械のハマダスター900ともども入りまして、ちようど七夕選挙の参議院選挙の時でした。それと同時に入ったもんだからマリノニ輪転の仕事で三十万とか何十万単位で大きな全戸配付のピラを何回か刷ったような記憶がある。

僕は印刷のことをやったことがなかったんだけど、東海共同に来て竹内さんの回していったフジ16かな、半自動というやつ。それからフジAとかいうとにかく活字を組んでちよつと回すと汚れがすぐと浮いてくるのもすごく苦労した。それと紙が悪いもんだから通りが悪いということ。それでもその当時はそれで何とかなったという感じはするけどね。

仕事としては、ページものもあった。「鶏卵」とか「インテリア」とか「建設」とかああいう大版なんかも何回かやったという仕事の内容です。それと、名古屋

で発行された「月刊東海」という雑誌も、潰れちゃったけど。

それから鉛に代えて樹脂版をがちよつと入れたんだな、あれはどちらかといったら失敗したんだな。なかなか細い線が出ないという難点があつて。

竹内 冬は寒いもんだからカリフォルニア製品というストーブがあつて、直接灯油を入れてそれをそのまま炊いちやうという。ばあつと勢いよく燃えるわね。

田中(知) 園田さんがその灯油のストーブの絵を書いて電製の休憩室に飾つてある。

和賀 僕はそばにいて服が燃えた経験がある。熱いと思つたらもうポロポロになつてた。

田中(知) 私は八〇年の三月二十五日に入りまして、二月の中旬にゴスが入ったんだよね。わあすごい工場に來ちゃったなあという感じがした。

元塩工場には屋根にホイストクレインがあつて、それで巻き取りや板紙など全部間に合わせたわけだね。水道管をパレットの下に突っ込んでワイヤーで吊るし、巻き取りもそのパイプに突っ込んでそれで吊るした。

他の小さいものは枚葉の紙を積み込む